

# クリティカル・サイクリング 文献・映像リスト

後藤祐希

クリティカル・サイクリングでは、活動の一環として、自転車に関連する文献や映像を調査・収集している。本リストは、その中でもIAMAS図書館に所蔵されている書籍と映画をまとめたものである。一部作品のレビューも紹介する。書籍や映像を通じて文化、娯楽、社会問題などが自転車を中心に広がっていることを、本リストを通じて読み取ってほしい。

書籍タイトル	著者	出版年
ロード競技トレーニング ホビーレーサーからトップアスリートまで	ヴォルフラム・リントナー 著/安家達也 訳	1998
Axis (76) : 「トラックレース用バイク」を収録		1998
岐阜自転車紀行	清水克時	2001
自転車生活の楽しみ	疋田智	2001
フォト!フォト!フォト! 自転車ロードレース写真集	砂田弓弦	2001
快適自転車ライフ	疋田智	2002
ミラクルトレーニング 7週間完璧プログラム	ランス・アームストロング、クリス・カーマイケル 共著/本庄俊和 訳	2002
Design (1) : 「コンパスと自転車」を収録	佐藤卓	2005
サイクリング・ブルース	忌野清志郎	2006
自転車利用促進のためのソフト施策 欧米先進諸国に学ぶ環境・健康の街づくり	古倉宗治	2006
世界同時中継!朝まで生テロリスト?	ボリス・ジョンソン 著/高月園子 訳	2006
行かずに死ぬるか! 世界9万5000km自転車ひとり旅	石田ゆうすけ	2007
志賀直哉 (ちくま日本文学 021)、短編「自転車」(1900年)を収録	志賀直哉	2008
ロードバイクの科学 明解にして実用! そうだったのか! 理屈がわかれば、ロードバイクはさらに面白い (SJセレクトムック No. 66)	ふじいのりあき	2008
萩原朔太郎 (ちくま日本文学 036)、短編「自転車日記」(1936年)を収録	萩原朔太郎	2009
I.D.(Vol.56 No.2 (0)) : 「Electric bikes」を収録	GORDON KANKI KNIGHT	2009
サクリファイス	近藤史恵	2010
成功する自転車まちづくり 政策と計画のポイント	古倉宗治	2010
ロードバイク進化論	仲沢隆	2010
Eye (Vol.20 No.77) : 「Bikes」を収録		2010
観光文化 第206号(第35巻2号) 特集: 自転車と地域振興	日本交通公社 編	2011
ぐるっとびわ湖自転車の旅 びわ湖一周サイクリング公式ガイド	輪の国びわ湖推進協議会 編	2011
サイクリング解剖学 (スポーツ解剖学シリーズ)	シャノン・ソヴンダール 著 田畑昭秀、増田恵美子 訳	2011
自転車女医のサイクリック(cyclinic)	蔵本理枝子、ドロンジョーナ恩田 共著	2011
世界が賞賛した日本の町の秘密	チェスター・リープス 著/服部圭郎 訳	2011
それでも、自転車に乗りますか?	佐滝剛弘	2011
Wheels of change how women rode the bicycle to freedom (with a few flat tires along the way)	Sue Macy	2011
銀輪の巨人 Giant (ジャイアント)	野嶋剛	2012
サイクルベディア 自転車事典 快適サイクリングのためのファッションとデザイン、そのおいたちと変遷が見える唯一の大図鑑	マイケル・エンバッハー 著 ベルンハルト・アンゲラー 撮影/一杉由美 訳	2012
自転車が街を変える	秋山岳志	2012
自転車生活でいこう! 自転車が人生を変える50の理由	エイミー・ウォーカー 編著/児島修 訳	2012
ハンドメイド自転車工房 フレームビルダーの流儀	大前仁	2012
Fifty places to bike before you die biking experts share the world's greatest destinations	Chris Santella	2012
Ghost bike	今井竜也	2012
ぐんぐん走ろう!東海自転車旅 愛知・岐阜 三重・静岡 福井・滋賀 (爽BOOKS)	木村雄二	2013
サイクル・サイエンス 自転車を科学する	マックス・グラスキン 著/黒輪篤嗣 訳	2013
自転車コミュニティビジネス エコに楽しく地域を変える	近藤隆二郎 編著 五環生活+輪の国びわ湖推進協議会 著	2013
自転車ツーリングハンドブック	山と溪谷社アウトドア出版部 編	2013

自転車トラブル解決ブック	丹羽隆志	2013
Creative review (Vol.33 No.11) :「A cycling lexicon」を付録	Phil Cater	2013
Feed Zone Portables: A Cookbook of On-the-Go Food for Athletes	Biju Thomas & Allen Lim	2013
The history of cycling in fifty bikes	Tom Ambrose	2013
50の名車とアイテムで知る図説自転車の歴史	トム・アンブローズ 著/甲斐理恵子 訳	2014
実践する自転車まちづくり 役立つ具体策	古倉宗治	2014
自転車“道交法”BOOK 自転車で安全に走るためのガイドブック	疋田智、小林成基文	2014
自転車に冷たい国、ニッポン 安心して走れる街へ	馬場直子	2014
自転車物語〔戦前篇〕スリーキングダム 王国の栄枯盛衰	角田安正	2014
大事なことは自転車が教えてくれた	石田ゆうすけ	2014
ロードバイク「規格」便利帳	バイシクルクラブ編集部 編	2014
Make:(Vol. 38) : 「EL-wire glow bike」を収録		2014
BICYCLE×TRIP : 自転車と旅(総集編) 自転車と一緒に旅に出る。	実業之日本社 編	2015
自転車のなぜ 物理のキホン! ぐるり科学ずかん	大井喜久夫、大井みさほ、鈴木康平 文 いたやさとし 絵	2015
十九世紀イギリス自転車事情	坂元正樹	2015
知れば知るほどおもしろい 日本の道路がわかる事典	浅井建爾	2015
漱石 個人主義 (Individualism) へ ロンドンでの“つぶやき”と“つながり”	夏目漱石 著/恒松郁生 編	2015
誰でもできる自転車メンテナンス	竹内正昭	2015
Make:(Vol. 46) : 「Motorize your bike」を収録		2015
チャーチル・ファクター たった一人で歴史と世界を変える力	ボリス・ジョンソン 著/石塚雅彦、小林恭子 訳	2016
電動アシスト自転車を使いつくす本	疋田智	2016
ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎満広	2016
Magnum cycling	Guy Andrews	2016
The Grand Tour Cookbook	Hannah Grant	2016

## マックス・グラスキン『サイクル・サイエンス—自転車を科学する』 河出書房新社、2013年

瀬川晃

1817年ドイツで馬車の応用から発明され、ちょうど200年が経とうとしている自転車は、サイクリングとして世界で12億人以上に親しまれている。本書は科学論文、学会発表、公式記録など膨大な資料からまとめられ、豊富なグラフやイラストを使った解説から楽しく自転車にまつわる理解を深めることができる。木製に始まりチタンやカーボンなどの材料や技術といった工学的観点も興味深い、バランス、健康、環境など、身体と自転車の関係が特に心惹かれる。例えば、ペダルを踏む力の最大99%が前進するエネルギーに変換されるほど効率が高く、また速度が2倍に上げれば、その3乗となる8倍の空気抵抗による影響を受ける。普段さほど意識せずとも競技になれば、いかにロスを最小限に減らせられるかが重要となる。一方「なぜ自転車は立っていられるか？」この素朴な問いは未だ数値化が困難であり、本書でも解明されていない神秘である。

## 忌野清志郎『サイクリング・ブルース』 小学館、2006年

後藤祐希

本書は、50歳で本格的に始めたという自転車体験を記したフォトエッセイである。始めたきっかけや、自転車と暮らすようになるまでの経緯などを通して、自転車の魅力を伝えてくる。また国内外7つの地域毎に旅の経験を語る数編の文章には、どれもが深く考えさせられる。「ゆるい気持ちで走ることが大切だ。これは人生にもいえること。」など、自転車を通じて人生や生き方などについてまで思いを巡らされるのだ。一方で、本書は実用書でもある。走り方やストレッチの仕方、愛用アイテムなどが紹介されている。それぞれ機能や効果が文章と写真で事細かに説明されているので、初心者にもわかりやすい。また前半で掲載された旅のガイド情報もあり、準備から旅に出るまでの全てが用意されているのだ。忌野清志郎自身に惹かれながら自転車の魅力を知り、出発するための情報を得る。読み進めるうちに忌野清志郎の音楽が聞きたくなり、自転車で旅に出たくなる、そんな一冊である。

DVDタイトル	監督	公開年
自転車泥棒	ヴィットーリオ・デ・シーカ	1948
私のイタリア映画旅行 Disc1 My voyage to Italy : A Martin Scorsese picture、 「自転車泥棒」(1948年)を収録	マーティン・スコセッシ	1948
晩春	小津安二郎	1949
ロシア・アニメーション傑作選集 Vol.4 Russian animation film works、 「サイクリスト」(1968年)を収録	レフ・アタマノフ	1968
ヤング・ゼネレーション	ピーター・イエーツ	1979
クイックシルバー	トム・ドネリー	1986
魔女の宅急便	宮崎駿	1989
ペダル ピストバイク・ムーブメント in N.Y	ピーター・サザーランド	2002
自転車で行こう	杉本信昭	2003
茄子アンダルシアの夏	高坂希太郎	2003
自転車少年記	示野浩司	2006
Fast Friday シアトル・ピストバイク・シーン	デビッド・ロウ	2007
僕たちのバイシクルロード	ジェイミー・マッケンジー/ベン・ウィルソン	2010
少年と自転車	ジャン＝ピエール&リュック・ダルデンヌ	2011
少女は自転車にのって	ハイファ・アル・マンスール	2012
プレミアム・ラッシュ	デヴィッド・コープ	2012
ツール・ド・フランス 栄光の100年	Jean-Christophe Rosé	2013
ランス・アームストロング ツール・ド・フランス7冠の真実	アレックス・ギブニー	2013
南風	萩生田宏治	2014
パンターニ 海賊と呼ばれたサイクリスト	ジェイムス・エルスキン	2014
レーサー/光と影	アレクシス・デュラン・ブロー	2014
私たちのハアハア	松居大悟	2015

## 杉本信昭『自転車で行こう』 2003年

湯澤大樹

自転車で旅をしているとよく声をかけられる。自動車や徒歩では無い、自転車特有のひととひとの距離。人の温かさを感じ、なんだか無性にホッとする。本作を見ている内にその時と同じ感覚が沸き起こる。主人公のリ・プーモンは、20歳の自閉症の青年。福祉作業所で作られた小物の販売員として、自転車を漕いで、毎日、街へ出掛ける。誰にでも話しかけてしまうせいで、営業成績は悪いのだが、彼に関わる人間は人間味に溢れている。素朴で温かいコミュニティの中で、純粋に日々を生きるプーモンの姿は実に魅力的である。嫌なことがあると勢いよく自転車を漕ぎ、良いことがあるとのんびり楽しそうに乗る。自転車に乗るプーモンの姿は、その時の彼の心の有り様がよく分かる。舞台である大阪生野区では、30歳を過ぎた彼はまだ変わらずに自転車を漕ぎ続けているのだろうか。

## 宮崎駿『魔女の宅急便』 1989年

綿貫岳海

掟に従い、13歳という若さで1人修行の旅にでるキキが主人公。思春期ならではの悩みと、成長につれて味わう挫折とその克服が描かれる。終始素直になれずツンケンとしてしまうキキがとても印象的。そんな彼女とは対照的に登場するのが、自転車少年トンボ。とつぜん空から飛んで来たキキに対し、飛ぶことへの純粋な憧れを強く抱いている。その気持ちが如実に象徴するのが、組み立て途中の自転車型人力飛行機。彼にとって自転車とは、ただの移動手段ではなく、空さえも飛べる魔法の乗り物なのだ。トンボが自転車を漕ぎ続けるのは、キキに追いつきたい心の現れに違いない。科学はいつも魔法を追いかけて進化してきた現象ともよく似ている。物語が進むにつれて、自転車は2人の距離を徐々に近づけていく。自転車を意識して本作品を観ることで、“魔女の宅急便”の新しい側面が見えてくるだろう。